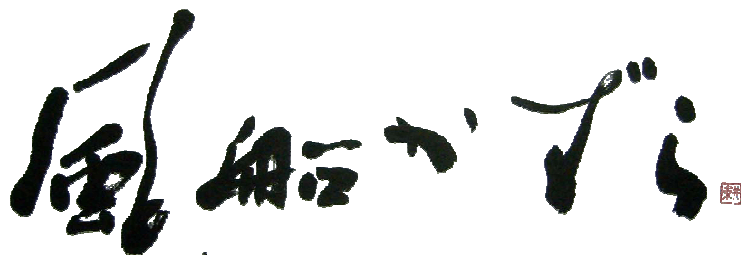


## 放送大学浜松同窓会



第6号

発行：放送大学浜松同窓会

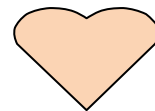
編集：浜松事務局

発行責任者：仲塚とし子

発行：平成23年12月15日

題字は松下安延氏（雅号耕山）

seeds of heart

同窓会連合会ホームページ <http://rengokai.ouj-dosokai.net>浜松同窓会ホームページ <http://is-lab.inf.shizuoka.ac.jp/~hdosokai>浜松サテライト・ホームページ <http://is-lab.inf.shizuoka.ac.jp/hoso.htm>

## 浜松同窓会の活動

## 会長 鈴木真喜子

放送大学浜松同窓会は、今年4年目を迎えました。その間、会員をはじめ、静岡学習センター、浜松サテライトスペースほか多くのみなさまのご協力で少しずつ活動を広げて参りました。今回は、今年度の活動について書かせていただきます。

5月15日には、お忙しい中、静岡学習センター所長、本多隆成先生にもご出席いただき総会、講演会、懇親会を行いました。今年は、3月の東日本大震災で東京での卒業式が中止になったため、同窓会の総会で仲間に会うのを楽しみにしていた新入会員もおられました。総会のあとには、同窓会員でもある「すずかけヘルスケアホスピタル」看護部長、鈴木民江さんの講演会を開催しました。演題は「老人の心理と介護」でした。現場での経験をもとに放送大学での学習のことも交えながら高齢者に接するときの態度について熱心にお話していただきました。

9月11日には、第1回、楽卒勉強会を開催しました。途中、講師をお願いしていました黒田浩平さんが急逝され開催が危ぶまれましたが、黒田さんと放送大学について、3人の同窓会員に語っていただきました。他に、会員の河合勝仁さんが放送大学卒業までの体験、佐藤一さんには研究論文についてお話していただきました。担当の小島邦弘さんには、準備から開催、報告書の作成までご苦勞をおかけしました。仕事をしながら卒業までこぎつけた同窓会員による在学生への学習支援のひとつの形だと思います。試行錯誤しながら続けていければと思っています。

10月2日の卒業式では、同窓会の活動紹介をさせていただきました。

11月1日には、静岡、浜松両同窓会の「交流見学会」が開催されました。静岡からバスで、富士市の湧水群、村山浅間神社、山宮浅間神社、富士宮の富士山本宮浅間大社を見学し、昼食は本場富士宮やきそばを食べて高砂酒造の見学とお土産も買って帰ってきました。それぞれの場所では専門家の解説もあり、静岡同窓会の人たちとの交流もあってよい事業だと思いました。

浜松同窓会は、これからも会員同士の交流、静岡同窓会との連携、そして、卒業生ならではの在学生支援を行っていきたいと思っています。みなさまのご協力よろしくお願いたします。

# Netstudy への誘い

放送大学静岡学習センター  
客員教授 市川 照久

Netstudy は、静岡学習センターに所属する学生団体「学燈会」に加盟する大学公認のサークルです。

<http://is-lab.inf.shizuoka.ac.jp/~netstudy>

2000 年に当時客員教授の富樫先生の呼びかけで、メンバーの情報交換と情報技術のスキルアップを目的に結成されました。メンバーはセミナーに参加し、自主勉強会を行い、その成果を 2005 年、2006 年、2008 年にテクノフェスタに出品し、毎回 80 人以上の方のオリジナル名刺を作成して提供しました。サークルの代表者は小笠原さんが務められ積極的に皆さんを引っ張って来られましたが、今年から小島さんにバトンタッチされました。世話役としては富樫先生から佐藤先生が引き継ぎ、現在は市川が担当しています。

毎年 1 回、春の入学式に合わせてお花見を兼ねた総会を浜松城公園の近くで開いております。現在 24 名のメンバーが登録しており、各自のホームページを持っています。中心的メンバーである河合京子さんは、頻りに旅行記を作成しご自身のホームページで紹介されています。

[http://is-lab.inf.shizuoka.ac.jp/~netstudy/ky\\_kawai](http://is-lab.inf.shizuoka.ac.jp/~netstudy/ky_kawai)

高度な技術をもった倉田さんは凝ったホームページを作成されています。

<http://homepage3.nifty.com/jg2ucu/>

学習相談日には、メンバーが誘い合い、パソコンを持参して日頃の疑問点を解決するために集まっています。パソコンを購入したがほこりがかぶっている、パソコンスクールに通ったがついていけない、こんな初歩的なことは恥ずかしくて聞けない、という方々が集まりお互いに教え合っておられます。

高度な技術を勉強したい方も、初歩から勉強したい方も Netstudy を活用しようではありませんか。

## 第2回楽卒勉強会のお知らせ

今回は、静岡県公務員として、建設・土木方面の業務を長く担当され、定年後放送大学に入学・無事卒業された、**小倉康弘さん**（浜松同窓会役員）と静岡同窓会で長年在校生の英語・ドイツ語の学習支援を担って来られた天理大学出身の**Mr. TAKAYUKI・MORITA** を講師にお願いしました。

会議及び懇親会出席希望者は 12 月 31 日までに下記宛までに御連絡下さい。会議のみの出席は、当日参加も歓迎しますが、資料準備の為 12 時 30 分頃までに、会場にお越しください。懇親会も当日参加、若干名は可能です。

記

1. 日 時 平成 24 年 1 月 15 日（日） 午後 13:30~16:30（懇親会 16:30 より 2 時間程度）
2. 場 所 会議 クリエイト浜松 4F キッチン室。 懇親会 近隣飲食店予定。
3. 懇親会参加費 3000 円。参加費は当日御支払いください。
4. 連絡先 小島 邦弘  
〒430-814  
浜松市恩地町 237-2 芳川ハイツ 2-103 TEL・FAX 053-426-2049  
mail [kojima-y@ck.tnc.ne.jp](mailto:kojima-y@ck.tnc.ne.jp)

# 会員紹介

本年度も多くの方が浜松同窓会に入会されました

名前	住所	名前	住所
鈴木 眞喜子	磐田市	仲塚 とし子	磐田市
安松 和男	浜松市中区	後藤 淑子	浜松市東区
黒田 浩平	逝去	松下 安延	浜松市北区
大石 純子	浜松市中区	小笠原 敏弘	浜松市中区
小倉 康弘	浜松市中区	岡本 康子	浜松市南区
古橋 達也	浜松市北区	小島 邦弘	浜松市南区
萩原 利行	掛川市		

## 平成 22 年 11 月までの入会会員

山本 勝司	島田市	中村 岩子	浜松市西区
鈴木 正男	浜松市北区	鈴木 民江	浜松市浜北区
赤堀 庄司	掛川市	小松 武夫	浜松市浜北区
長嶋 孝行	御前崎市	馬淵 和美	浜松市中区
横田 典子	田原市	豊田 宣子	湖西市
鈴木 尚	豊橋市	藪下 径子	浜松市東区
井口 徳久	浜松市南区	澤木 宏子	浜松市中区
小宮山 ひろみ	磐田市	大島 充裕	浜松市西区
服部 昭子	袋井市	松本 健太郎	豊橋市
小田切 さつき	浜松市東区	河合 京子	浜松市中区
枘本 裕士	浜松市天竜区	鈴木 通代	浜松市西区
鈴木 朝子	浜松市中区	尾藤 登	浜松市東区

## 平成 23 年 12 月までの入会会員

松本幸子	磐田市	大坪秀雄	浜松市天竜区
藤城佐知子	田原市	本多佳子	浜松市南区
太田浩一	浜松市浜北区	林本和俊	浜松市中区
久米定夫	浜松市中区	小宮山眞知子	浜松市中区
平野正樹	浜松市浜北区	井口麗子	浜松市中区
朝比奈裕美	島田市	河合勝仁	浜松市中区
小林正孝	浜松市東区		

# 「同窓会交流見学会に参加して」

仲塚 とし子

正面赤い鳥居をくぐると、徳川家康が関ヶ原の戦いの戦勝を記念して、造営したと伝えられる、楼門・拝殿が目の前に飛び込んできます。また、境内にある信玄の寄進とされている信玄桜が、花見の季節には人々を和ませ、源頼朝公は当大社に流鏑馬を奉納し、現在も流鏑馬祭として賑やかにとり行われています。遠い昔、日本武尊（やまとたけるのみこと）の時代から今日に至るまで、私達は富士山に畏敬の念をいだき、それを信仰登山へと導いています。



（ 澄んだ湧水に、鯉や鴨が泳ぎます ）

境内の湧玉池には、霊峰富士山の雪溶け水がいたるところに流れ、昔から富士道者はこの池で身を清めて、六根清浄を唱えながら登山をする習わしになっています。心身ともに清浄な気分になり、とても厳粛で安寧を得たと思われます。

パワースポットとしても有名で、全国的な崇敬を集め、東海の名所となっている大社前には、B級グルメでお馴染みの富士宮焼きそばなどのご当地グルメが楽しめます。私達も富士山の懷に抱かれ、アツアツの富士宮焼きそばをいただきながら、実り多き秋を満喫しました。

## 学生募集

放送大学では、夢を実現させるべく入学される方々を心から歓迎しています。

放送大学本部 TEL 043-276-5111

募集要項請求フリーダイヤル FAX 043-297-2781

放送大学ホームページ <http://www.ouj.ac.jp>



# 研修旅行に参加して

小倉 康弘

去る11月17日から18日まで「放送大学本部と国立歴史民族博物館、東京国立博物館見学会」に参加してきました。幸いにして天候に恵まれて、ほとんど雨に遭うことはありませんでした。総勢19人。出発直前に、青島さんが体調を壊されたそうで参加できず残念でした。

私は、前回（平成18年）の研修旅行にも参加しましたが、その時は放送大学本部と国立歴史民族博物館見学が主であったと記憶しています。今回は、坂口さんが事前に参考図書を紹介してくれたり、高校の歴史教科書を配付してくれたりしましたので、大変助かりました。



放送大学本部前で



国立歴史民族博物館で

国立歴史民族博物館は、前は、特定の箇所を重点的に観覧するという基礎知識が無かったので、忙しく全体を駆け巡っていたような記憶があります。この度は予め受け取ってあった書物（歴史教科書）、参考図書と当日車内で坂口さんが懇切丁寧にレクチャーして頂いたことが大変役にたち、どこにも行かず第6展示室を中心に観覧しました。戦前戦後の日本について、良く理解できました。何だか私どもの子供時代にタイムスリップしたような気持ちになりました。

放送大学本部は放送施設と図書館を見学しましたが、前回と比べてさしたる変化は感じませんでした。時代の流れで今はデジタル方式になっているのも当然の成り行きかと思いました。

東京国立博物館は初めて見学しました。短い時間で成るべく多くのものを観覧したいのは当たり前ですが、今回は本館だけを時間をかけて観ることにしました。

私は、これまでは博物館の観覧について何の計画も、視点もなく何となく観て回って帰りの時間ばかり気にしているのが常でしたが、今回の経験から博物館の観覧については…以下の教訓を得ました。

- ① 全体を一気に観るのではなく、観る範囲を絞る。
- ② 時間を充分確保する。
- ③ 観る範囲を変えて何度も出かけていく。

今後は博物館、美術館等の見学や鑑賞について、この度の経験を充分生かして臨みたいと考えます。事前の準備や当日お世話下さった幹事の皆さん、大変ご苦労様でした。



# 第1回楽卒勉強会の報告

小島邦弘

日時 平成23年 9月11日(日) 場所 クリエイト浜松

司会者 小島邦弘

## 演題

- |                           |                     |
|---------------------------|---------------------|
| ① 黒田さんと放送大学の関わりについてのリレー講話 | 1時間                 |
| 藪下さん・鈴木朝子さん・安松和男さん        |                     |
| ② 佐藤 一氏                   | I 私の卒論について 30分      |
|                           | 2 私が考える昭和時代 30分     |
| ③ 河合勝仁氏                   | 私の卒業までの道のり 1時間      |
| ④ 学習相談等                   | 自由討論・同窓会と在学生の懇談 30分 |
|                           | 講演終了 16:30          |

懇親会 近隣で2時間懇談

## 経過

準備不足もあり、不安を抱えての第1回楽卒勉強会でしたが、皆様の御力添えで無事終了しました。発表者の原稿から筆者が気付いた点を発表順に、2. 3記します。

安松さんの報告は、点字で寄稿されましたので、小生が墨訳しました。放送大学の後輩に対して示唆される点の多い文章は、編者が手を加えるべきではないと考え、そのまま本誌内別記事として掲載しましたので、そちらをお読みください。

鈴木さん・藪下さんの報告は、放送大学浜松サテライトの最長老である黒田氏が、浜松の有名書店谷島屋書店の役員を定年退職後、生涯学習を全うすべく、英語の単位修得からはじまり、小説、俳句、ダンス等と多岐にわたる放送大学の仲間との交流をへて、集大成としての近代史研究の二部作『愛国行進曲はなぜ敗北したか』『日清戦争と日露戦争』に到達された経過を、年代を追いつつ、逐次報告されました。定年後から近日急逝される約10余年の間にこれほどの仕事が、その気になれば可能である事を改めて知らされました。

参会者一同黒田さんの御冥福をお祈りしました。

河合さんの報告は、①入学動機、② 入学後 ③ 学習方法 ④ 回顧よりなり

① について、放送大学の生徒募集の広告が職場に掲示されていた事と、働きながら自宅の勉強で4年生大学の卒業資格が得られる点が入学動機であったというのは、他の本学学生からも共通して聞ける意見であり共感しました。又、面接授業が、他の通信制大学のように遠隔地に限られた時期に向かなければ、単位が取れない仕組みではなく、地元で自分の時間を選択しながら面接単位が取れる利点を強調していました。しかし、試験もなく、単位が地域で取れてしまう利便性に含まれる問題は、仏教大学通史教育部のホームページに紹介されている、卒業生の卒業体験談と我等放送大学の学生が感じている卒業の困難さとの質の違いに出ていると感じます。

② と③について、学習時間を自宅中心ではなく、時間を作って浜松サテライトに通い、勉強に集中し効率化した点と、クラブ活動に参加し、学生や学習相談の先生と対話が出来たことが、勉強を途中で諦めないで継続出来たとの報告があり、共感出来ました。

しかし、やはり、仕事との両立は学習の意思があっても困難さを感じた。この点、自宅が浜松の教室に近く、幸運であったが三島や浜松よりはるか遠隔地の学生は、どうしたらよいのでしょうかという問題提起に対して、最近授業システムが改良されたので、これを積極的に利用すべしという意見が参会者より出ました。さらに、参会者より、全国同一の学費を支払っている放送大学受講生の首都圏と地方、更に原則各県1ヶ所のセンターという体制の中での各県内での利便性の格差の問題も提起され、一同考えさせられました。又講話内容からクラブ活動で学生同士が自由に使える室が無い、学習室がヘッドホンの勉強であり、私語を楽しむ場所も機会もない。又、学習相談日が平日の

昼間であり仕事のある人が利用しにくいことも感じ取れ、大学首脳陣にも考えて戴きたいと思いました。河合さんは、いろいろな問題を克服され無事卒業されたわけですが、そこまでこぎつけた感想として、勉強は楽をしては身につかない。楽でないのに勉強に向かう心は、行政書士という大学卒を基本とした資格を得たいという思いがあったとのお話がありました。他の卒業生の例をみても、放送大学の卒業資格を別の資格取得に結びつけ、職業の資質向上に役立てたいという思いの強い学生の、卒業率が高いように筆者も思います。

佐藤一さんの報告は

私の教育感と放送大学について。

大正4年生まれ佐藤さんの履歴のうち、昭和42年以前の中国（台湾地域）との関わりは明らかにされていないが、同年以後は台湾と日本の往復を繰り返す生活の中で、日本語と中国のつながりを求め、高木桂蔵教授在職中の放送大学に入学された。勉強の信条は、日本人は中国人を見直す必要がある、特に中国語を履修して、中国人と関わりを、持とうとする者は、中国の歴史の概略と共に、日本の歴史にも理解が必要だということである。卒業論文は「台湾における三字経」であり、その執筆動機は台湾人との会話の発音の難しさを感じていた時、台湾の三民書局の児童読み物のコーナーに『三字経』が10種程ならんでおり、一部の母親たちが、母国語を（中国語）を正しく発音させる為に、子供に教えているということを知ったからである、とありました。

佐藤さんの教育感、現代の日本教育に失われた戦前の教育の見直しであり、当節では過去の遺物とみなされやすい『教育勅語』を再検討し、太平洋戦争敗戦後日本で見失った道徳、倫理感の再構築をすることである。それを遂行するための基本的教育方法として、名作（論語等）の素読と暗唱を幼児期から始めるべきであるとのことであり、学問の基礎は先人の功績の素直な暗唱からはじまるとの意見です。この考えは放送大学の単位習得にもあてはまり、単位試験合格の秘訣は印刷教材の素直な暗記に始まるという、他の卒業生の意見もあり、賛否それぞれあっても、とりあえず理解し易い講和でした。又、現代教育で禁止されている体罰も時と場合によっては容認すべきであり、無秩序が目立つ教育現場の再構築のために検討すべしという意見を提示されました。この件についても種々意見はあるでしょうが、佐藤さんの御意見として紹介しておきます。

# 黒田浩平さんと放送大学

安松 和男

会者定離 会う者は必ず別れがあるといわれますが、黒田さんとお別れが、こんなに早く訪れるとは思っていませんでした。訃報の連絡は佐渡旅行に出かけていたところに、鈴木真喜子さんから携帯に電話がありほんとうに英語クラブをはじめとして私たちを導いてくださった黒田さんがこんなことになってしまい残念でたまりません。もっと、長くご活躍されご指導頂きたかったと思っています。

小島さんから今回のお話しの依頼を受け、黒田さんについて何をお話したらよいか考えてみましたが、実際には仕事の都合で英語クラブになかなか参加できず黒田さんとゆっくりお話する機会はあまりありませんでした。唯一私と黒田さんとの思い出は放送大学と直接関係ありませんが、わかふじ国体の炬火リレーに私が応募して炬火を持って先頭を走る事になったのですが、一緒に走っていただける伴走者が見つからず困っていたところ黒田さんがそれならば、自分が一緒に走りましょうと行ってくださり、浜松城公園や体育館での2回の練習を含め本番も中田島の海浜公園から江ノ島の公園まで、約1キロ無事に完走出来た事です。わかふじ国体は、平成15年2002年で皆さんは恐らく覚えてられるか、2011年（平成23年）12月15日 放送大学浜松同窓会「風船かずら」第6号 (8)

わかりませんが、そのときは8月半ばまで涼しく冷夏の年でした。本番は10月11日小雨が降っていましたが国体の炬火リレーがどんなものか知り私の人生にとって、貴重な体験でした。黒田さんも大変お疲れだったと思いますが、安松さんのおかげで、いい経験をさせてもらいましたといただいき、大変恐縮してしまったのを、まだ昨日のこのように覚えています。それが黒田さんとの、思い出ですが黒田さんは、自身のホームページに放送大学に関する記事を沢山書かれています。その中には私達に示唆を与えて下さる貴重な書きこみがありましたので最後に、その中から少し読み上げさせていただきます。

.....

### 放送大学に見る21世紀の世界像

放送大学の講座の中には愛がある。人間に対して動物や植物に対して自然現象に対してさえも愛に満ち満ちている。豊かさを求める人間を肯定しつつ抑制の大事さを語っている。

科学技術の進歩発展を称えつつ人間の奢りを戒めている。民族の対立や抗争を叙述しながら宗教や文化や習慣の差異を認めて容認しあう世界を祈っている。経済社会問題を抱える一連の将来に対する示唆がいたる所に散りばめられている。

個別特殊な宗教の、排他性が浮き彫りにされながら、究極的には、相互尊重の中で共存出来る事を予感させる。やがて死ぬべき、宿命を負った一個の現存在としての自己が、困難を克服し誇りを持って、生き抜いていく、その勇気を与えてくれる。放送大学の中に我々が求める21世紀の世界像がある。求めさえすれば誰にも惜しみなく与えられるシステムがここにある。

学ぶという贅沢はこの世にある贅沢の中では外にはないではなかろうか。知りたいという欲求、出来るようになりたいという願望、それは人間の本能ともいえることだと思う。

赤ん坊は言葉を覚える、這う事を、歩くことを覚える。親の真似をしていろいろなことが出来るようになる。もちろん母親の教育と言うこともあるが、それだけではない。そこには、生物が共通に持つ本能が、働いている。生涯を通じてその、欲求のまま学び続けられたらとしたら、これはこの上なく、幸せなことに違いない、そう思っていつでもどこでも学べる放送大学に入学した。そしてこれは、豪邸に住み高級車を乗り回し、世界の珍味に舌鼓を打つよりも、はるかにまさる贅沢だと考えている。

.....

## 【 放 送 大 学 】

小林 正孝

《放送大学に入学しました》と言うと、ほとんどの方が《NHK学園ですか?》と聞かれる程、残念ながらその知名度は低いのが現状です。1981年6月公布・施行の、放送大学学園法により翌7月設立した文部科学省が認可・総務省が所管し、国が関与している【大学院併設の通信制の大学】で、本部は千葉市美浜区にあります。学士・修士の学位取得や、キャリアアップ・自己実現など、生涯学習を目指す方を応援していて、これまでに100万人以上の人々が学び、4万5千人を超える卒業生を輩出、現在も8万人を超える方が在籍しており、皆様が自分の目的や目標に向かって、各自の方法で学習しています。

尤も、私も当初からその内容を知っていた訳ではなく、自分のペースで学習できるような機関はないだろうかと思っていたところ、たまたま近くの図書館で同大学の存在を知り、早速ネットで調べてみました。最大の注目点は、《入学資格は、学ぶ意欲》というもので、全科履修生の場合、高校卒業していれば無試験で入学できることでした。そして通常入学時期は、4月と10月の年2回あるのですが、丁度『社会保険労務士試験』を控えていましたので、終了後の平成19年10月に『全科履修生』として入学致しました。



学習方法はおよそ3通りあり、①衛星放送・CATVを利用 ②全国に所在する約60か所の学習センターにて視聴 ③インターネット配信を利用し自宅で学習ですが、③の方法は平成20年度から開始されました。

従って入学当時は、市内のクリエート浜松内にある『浜松サテライトスペース』に週2～3日ほど通いましたが、上記③のインターネット配信がスタートしてからは、ほとんどこの方法で学習できることになり、随分時間的にも楽になり、大変助かりました。

入学から単位取得・卒業までの流れは、科目登録後、一学期・二学期前に、自宅に送付される教本に基づき、個々の方法で学び、通信問題及び単位認定試験により、合計124単位を修得する必要があります。当初はその学習方法も分からず困惑しましたが、サテライトスペースの方々や、入学と同時に入会した同好会『ネット・スタディ』のメンバーに教えていただき、何とか無事スタートすることができました。卒業までの期間は4年～10年とのことでしたので、無理をせず6年ぐらいを目標にして学習計画を立てたものです。

124単位の内容ですが、『放送授業』で94単位・『面接授業』で20単位・『放送・面接いずれか』で10単位各々以上という条件です。更に、各自が専攻した専門科目(私の場合は生活と福祉)で30単位以上が必須となっています。

前述した通り、当初6年での卒業見込みでしたが、インターネット授業が導入されたことで順調に学習が進み、この度丁度丸4年経過の今年9月で130単位修得ができ、お陰様で卒業することができました。

10月2日(日)に、県西部地区の【学位記授与式】がクリエート浜松で開催され、念願の卒業証書・学位記を手にして感謝すると共に、また思いがけず『答辞』の役目を仰せつかりましたが、何とか無事に果たすことができましたので、二重の喜びとなりました。平成23年度の全国合同卒業式は、来年3月24日(土)・東京のNHKホールで開催されますが、『面接授業』などで教えていただいた教授の方々や、一緒に学んだ仲間たちとの再会を今から楽しみにしています。

高校卒業当時は、さしたる学習意欲もなかった為、進学もせず就職の道を選びましたが、その事はずっと心残りでした。自分の時間活用と、生涯学習の為にピッタリの教育機関に出会えたお陰で、素晴らしい学生生活を過ごすことができ、加えて目標にしていた福祉関係の資格も取得することができました。卒業を機会に、これからの人生を少しでも『地域福祉』に貢献したいと考えています。手始めに10月から、75歳以上高齢者の集い【タチバナ会】でのお手伝いを開始したところです。更に今後は、社会福祉協議会の定例会にも出席させていただきながら知識を深めたいと思います。また今春、地元積志町吾妻自治会の総会で、次期自治会の会長を要請されましたので、微力ながらその任務を全うしたいと思っています。

三浦綾子著【氷点】の中に、次の一文があります。

《一生を終えて後に残るのは、我々が集めたものではなく、我々が与えものである》この言葉を自分の座右の銘として、これからも精進したいと思っています。



【学位記授与式】の折、卒業生を代表して『答辞』の大役を仰せつかり、緊張しながらも無事終了？



## 新会員募集



### 編集後記

会報発行にあたり、原稿をお寄せくださった皆様ありがとうございました。今回はページ数が少し多くなってしまいました。来年も同窓会の行事にご参加下さり、感想などをお寄せください。心からお待ちしています。

(事務局長 仲塚 とし子)